

## 第7回 ふくまる夢たまごセミナー

日時 2019年10月25日(金)18:00~20:00  
場所 市庁舎7階大会議室  
内容 先輩に学ぼうPART1  
講話「子ども理解と学級(集団)づくり」  
講師：酒井 真依(緑丘小学校教諭)  
北 享子(ほそごう学園教諭)

第7回「ふくまる夢たまごセミナー」は、「先輩に学ぼう」シリーズ第1弾(PART 1)として、緑丘小学校から酒井真依先生、ほそごう学園から北享子先生の2名の先生方に来ていただき、「子ども理解と学級(集団)づくり」について話をさせていただきました。



緑丘小学校の酒井先生は、ふくまる教志塾の卒業生であり、教職4年目です。最初酒井先生は、本年度の塾生に問いかけました。

「皆さんはどんな学級にしたいですか。」この問いに真剣に考える塾生、しばらくして酒井先生は次のように話されました。

「私は、全員が安心して過ごせる学級に

したい。児童は一日のうちの8～9時間を学校で過ごす。だからこそ学級が安心して過ごせる場所でないといけない。」

そして、酒井先生から、安心できる学級づくりのため大事にしている3点、「授業が基本」「遊び心を持つ」「会話と対話」について具体的に話していただきました。

また、不登校になりそうであった児童に「なぜ学校に行かないといけないのか。」と問われたときの切実な思いも聞かせていただきました。

ほそごう学園の北先生からは、これまで学級づくりで大事にしてきたことを「つながり」というキーワードでわかりやすく伝えていただきました。

1. 生徒とのつながり
2. 職員とのつながり
3. 生徒や保護者とのつながり

なかでも、生徒とつながるためにテーマを決めないで行うクラスミーティングの話は、塾生には新鮮だったようです。

また、保護者とのつながりについては、不登校の生徒の家庭に、毎日出している学級通信を届け続け、日々の学級の様子を知らせることで保護者と信頼関係を結んでいった話を聞かせていただきました。



### <塾生の感想から>

○ 酒井先生のお話では、最初にどんなクラスにしたいか、と問われました。自分のイメージの無さ、想定することができていないことに気付かされました。北先生のお話では、生徒の主体性を大事にされていることが伝わりながらも観察や関わりを積極的に行うなどアプローチをたくさんされていることが分かりました。



○ 今回お二人の先生のお話を聞き、つながりが本当に大切だということを実感しました。例えば不登校児童・生徒に対して会えなくても手紙を渡したり、学級通信を渡したりクラスの様子を伝える等、「私は君のことをちゃんと考

えているよ」と伝えることが必要であると感じました。子どもにとって今一番必要なことは何かを考えられる教員になりたいと思いました。



○ 今日のセミナーを通して、人と人との関係性を大事にすることの大切さを学びました。酒井先生も北先生も共通して児童と生徒と対等の立場で接しており、一人一人と真剣に向き合っていると感じました。生徒と真剣に接する中で信頼関係が築かれ、本音を言える関係を作れるのだと思いました。私も教師になったら

生徒となんでも話せる関係になるため生徒一人一人を尊重して積極的に関わっていきたいです。

○ 今回のセミナーに参加し学べることが本当に多くありました。私が一番印象に残っていることは、先生と子どもとしてだけでなく、人と人として接することが大切だということです。私は今までこのように考えたことがありませんでした。先生だから子どもに教えなければいけないとばかり思っていました。子どもと共に学び、お互い人として成長していくことで信頼関係が生まれるのだと思いました。